

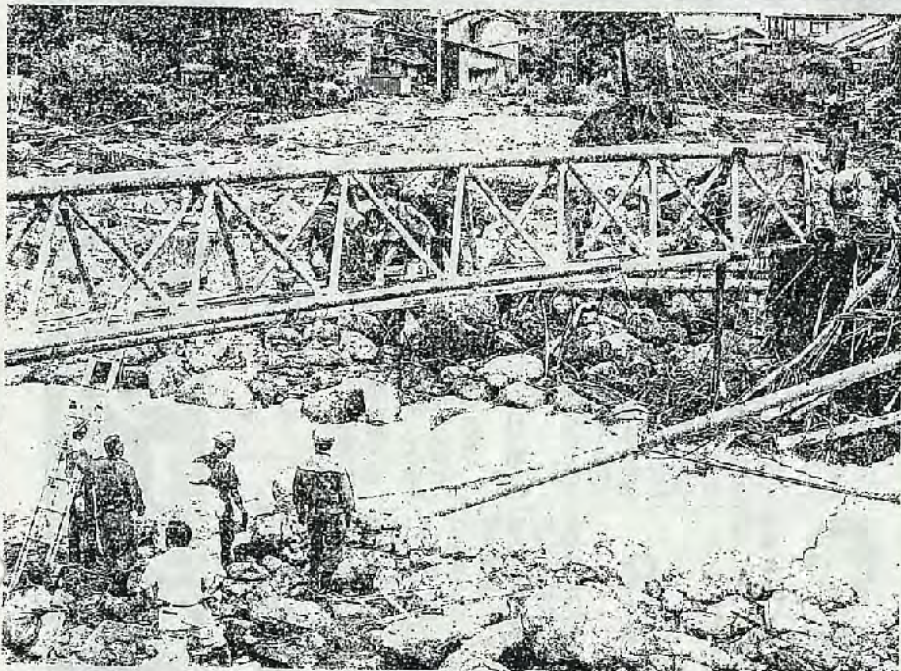
避難勧告後手に回る

県西・北部豪雨

冠水し道の境見ええず

佐用町 経路は住民に委ねる

兵庫県西部と北部を襲った豪雨。県内では人の死にまで確認されたが、うち佐用町本郷地区の同じ町営住宅に住む3世帯の人が避難所に向かう途中、潮流にのまれた。過去大きな被害がなかった暮山川に対し危険という認識が薄く、町が全世帯に避難勧告を出した翌夜、近くの川は冠水がはじまり始めたという。「対応が後手だった」と町、県、国交省の担当の責任をめぐり、避難勧告の発令時期について協議が急務とされている。



自衛隊員らに助けられ、水筒を渡って避難する住民。すぐ下の福知川は潮流が逆巻いている＝10日午後5時半ごろ、赤粟市一宮町福知（提供写真）



本郷地区で流されたのは、小林佐美さん(40)、井上則さん(40)、井上さゆり(16)の3人家族。3人が避難所に向かう途中、潮流にのまれた。過去大きな被害がなかった暮山川に対し危険という認識が薄く、町が全世帯に避難勧告を出した翌夜、近くの川は冠水がはじまり始めたという。「対応が後手だった」と町、県、国交省の担当の責任をめぐり、避難勧告の発令時期について協議が急務とされている。

この付近の避難所指定されている暮山川は、住宅から約1キロの北東。高台の安全な場所に多くが、経路に危険が潜んでいた。用水路は長さ水深10センチだが、崖から水が流れ落ちた。崖が崩れ、川が用水路の橋を渡るルートがなくなり、途中で潮流に足を取られたという。

橋3本流れ陸の孤島

赤粟

兵庫県西部と北部を襲った豪雨。10日、赤粟市一宮町福知地区が孤立。同日夜までに約80人が救出された。一方、同じ町営住宅の住人も入居しなくなった佐用町本郷地区では、住民が深い冠水に沈んだ。

福知地区では、福知川の橋3本が流れ、冠水が激しく、住民が深い冠水に沈んだ。一宮町福知地区が孤立。同日夜までに約80人が救出された。一方、同じ町営住宅の住人も入居しなくなった佐用町本郷地区では、住民が深い冠水に沈んだ。

流された佐用町本郷地区では、行方不明者の捜索が下流に範囲を広げて続けた。1人になった小林佐美さん(40)は夫と死別、4人の子を育てていた。同じ犠牲者になった長女彰乃さん(16)は県立福知北高等学校の2年生。父の病をきっかけに道徳の道を行くが、半ばで絶たれた。

同日町営住宅に住む井上則さん(40)も長男の唯一の息子、長女俊子さん(16)とともに冠水で溺れた。妻の姿をえんむるが行方不明。近所の主婦(85)は「9日は俊子ちゃん(4)の誕生日で、家族でお祝いをすると思っていたけれど、お盆を待たなかった。」(小林幹夫、広岡陽子、山岸洋介)

8/11 朝日

夜間避難 流される?

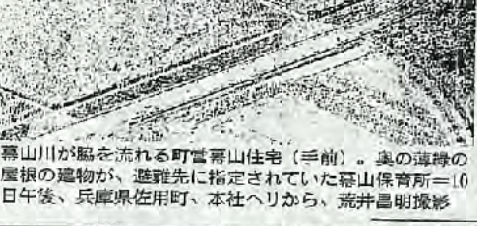
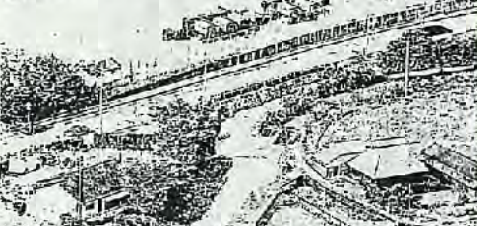
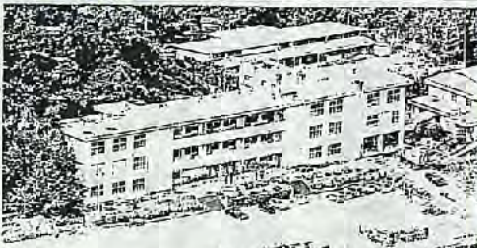
佐用町 勧告時には冠水

台風9号の影響で西日本に降った豪雨で、兵庫県佐用町で相次いだ死者や行方不明者の大半は夜間に避難しようとして濁水した川の氾濫でのもたらした。町や地元消防の関係者がこうした見方を示した。避難勧告が出た時点で中心部の道路はすでに水没していたといい、専門家はその対応に問題があった可能性を指摘する。

11日午後2時27分に、26・27面に関係記事

佐用町は、東部を流れる千種川と中央部の佐用川の水位などを「総合的に判断」（町幹部）し、災害時の警報を出すことになった。9日午後9時20分、全県に避難勧告を出したが、市街地の道路はすでに水があふれていた。町内の死者11人のうち、屋内で発見されたのは1人。避難勧告が出たのは、避難勧告の基準の河川より先に支流があふれた。道路が冠水していたため、被害者の大半が流されたのでは」と語った。消防関係者も同様の可能性を指摘して、

総務省消防庁防犯課によると、自治体は避難勧告を出す際のガイドライン（09年7月制定）には、今回のような豪雨の発生を想定して「総合的に判断する」とある。



佐用町内の死者11人のうち、6人は、本郷地区にある町営「葎山住宅」の住居だった。なぜ被害が集中したのか。記者たちは現場を歩いた。

町の西部、もとは田んぼだったという場所に葎山住宅はあった。2世帯ずつ入居していた。1戸建てが並んでいて、すぐ北側に、はらんだ葎山川があり、10日午後にも濁流は激しかった。

「まさか、近くでこんな水害が起きるとは思ってもなかった。同じ住人が犠牲になったと聞き、言葉がありません。2世帯前に引越してきた山本康博さん(52)はこう書いて、うろついた。

山本さんによると、9日午後9時ごろ、住民に避難を呼びかける町の放送が各家庭の防災連絡用スピーカーから流れた。避難先に指定されていたのは約200メートル離れた葎山屋敷所。葎山川を渡らなければならぬ。

「避難しなれば、だが、車はマフラーの所まで水につかり、エンジンがかからない」と思い断念、自宅を階上から葎山川を見下ろし、最も近い橋の上にあふれようとするほどの水位だった。

その橋を渡る人が持っていたとみられる懐中電灯の明かりが2つ見えた。避難所までたどり着いたかどうかわからない。橋を渡るのは危険だ

吸築 自治体は雨量や川の水位などをリアルタイムで把握すべきだと佐用町の対応に疑問を投げかけた。

岡山県岡山市工務部の河田憲昭教授(危機管理)は「市街地では川がはらんだら避難勧告を出すのは危険。水は濁って側溝などの排水が困難で、夜間ならなおさら」と話した。無理に避難がへんがより、建物の上部階にいた方が安全な場合もあるという。

自治体別の死者・行方不明者数

自治体	死亡	行方不明
佐用町	11	15
兵庫県	1	1
岡山県	1	1
徳島県	1	1

11日午前0時現在、兵庫県、岡山県、徳島県の死者13人、行方不明者は18人になった。兵庫県によると、佐用町では、町営葎山住宅に住む小林佐喜美さん(40)の息子と人、井上唯人さん(17)の父子8人の遺体が田んぼや水路などで見つかり、仕事で来ている兵庫県の会社員、馬場博太郎さん(40)も遺体で見つかった。水没した車の中で見つかった町職員、岡田武治さん(47)は現場に駆けつける途中だったという。

また、佐用町に隣接する兵庫県赤松市の山間部で橋が崩れ、住民や観光客ら106人が孤立。県は10日、消防を呼び出して救助した。消防によると、家屋の浸水被害が起るとは思ってもなかった。同じ住人が犠牲になったと聞き、言葉がありません。2世帯前に引越してきた山本康博さん(52)はこう書いて、うろついた。

山本さんによると、9日午後9時ごろ、住民に避難を呼びかける町の放送が各家庭の防災連絡用スピーカーから流れた。避難先に指定されていたのは約200メートル離れた葎山屋敷所。葎山川を渡らなければならぬ。

「避難しなれば、だが、車はマフラーの所まで水につかり、エンジンがかからない」と思い断念、自宅を階上から葎山川を見下ろし、最も近い橋の上にあふれようとするほどの水位だった。

その橋を渡る人が持っていたとみられる懐中電灯の明かりが2つ見えた。避難所までたどり着いたかどうかわからない。橋を渡るのは危険だ

感じた山本さんは、別の方向に逃げ、離れた町内の妻家に向かったという。

断続的に雨が降る10日午後、地区の対策本部が置かれた本郷公民館を訪ねると、数人の自治会メンバーが残っていた。「公民館の扉を開けると、ふくらはぎくらいまで水が来ていた。危ないのだから出てきたら平気か」と、自治会会長の岡本勝廣さん(55)は9日夜の状況を語り続けた。

自治会会員の金近田里さん(55)は9日午後8時20分ごろ、「キーン」という悲鳴を聞いた。公民館から外に目を向けると、川の脇の側溝に倒れ込む人影が見えた。「一気に川が増水したのだ。5年前の台風16号の時、はんらんしたのに、濁った川の流れを見ながら逃げたんだ。」

川田博史、鈴木神和(両氏提供)

豪雨死者13人に

豪雨による被害は広がり、11日午前0時現在、兵庫県、岡山県、徳島県の死者13人、行方不明者は18人になった。兵庫県によると、佐用町では、町営葎山住宅に住む小林佐喜美さん(40)の息子と人、井上唯人さん(17)の父子8人の遺体が田んぼや水路などで見つかり、仕事で来ている兵庫県の会社員、馬場博太郎さん(40)も遺体で見つかった。水没した車の中で見つかった町職員、岡田武治さん(47)は現場に駆けつける途中だったという。

また、佐用町に隣接する兵庫県赤松市の山間部で橋が崩れ、住民や観光客ら106人が孤立。県は10日、消防を呼び出して救助した。消防によると、家屋の浸水被害が起るとは思ってもなかった。同じ住人が犠牲になったと聞き、言葉がありません。2世帯前に引越してきた山本康博さん(52)はこう書いて、うろついた。

山本さんによると、9日午後9時ごろ、住民に避難を呼びかける町の放送が各家庭の防災連絡用スピーカーから流れた。避難先に指定されていたのは約200メートル離れた葎山屋敷所。葎山川を渡らなければならぬ。

「避難しなれば、だが、車はマフラーの所まで水につかり、エンジンがかからない」と思い断念、自宅を階上から葎山川を見下ろし、最も近い橋の上にあふれようとするほどの水位だった。

その橋を渡る人が持っていたとみられる懐中電灯の明かりが2つ見えた。避難所までたどり着いたかどうかわからない。橋を渡るのは危険だ

感じた山本さんは、別の方向に逃げ、離れた町内の妻家に向かったという。

断続的に雨が降る10日午後、地区の対策本部が置かれた本郷公民館を訪ねると、数人の自治会メンバーが残っていた。「公民館の扉を開けると、ふくらはぎくらいまで水が来ていた。危ないのだから出てきたら平気か」と、自治会会長の岡本勝廣さん(55)は9日夜の状況を語り続けた。

自治会会員の金近田里さん(55)は9日午後8時20分ごろ、「キーン」という悲鳴を聞いた。公民館から外に目を向けると、川の脇の側溝に倒れ込む人影が見えた。「一気に川が増水したのだ。5年前の台風16号の時、はんらんしたのに、濁った川の流れを見ながら逃げたんだ。」

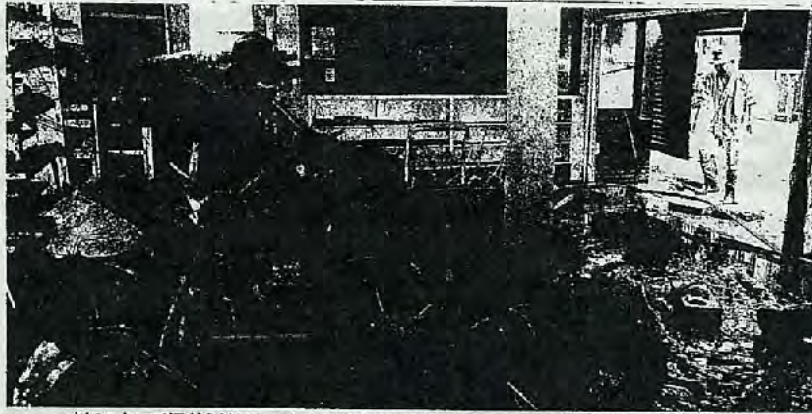
川田博史、鈴木神和(両氏提供)

悲鳴 人影のむ濁流

被害集中の本郷地区

車横転 流木散乱

佐用町ルポ



水につかって泥だらけになった店内（10日午前10時3分、兵庫県佐用町で）＝川崎公太撮影

一部の停電で闇は濃い。ゴーストという音で雷雨の規模がわかるだけだ。黄色い非常灯がともる佐用町役場だけがぼんやり闇に浮かび、それを目印に、腰まで泥水につかりながら頭へ進み、役場にとりこまれたのは10日午前2時頃だった。役場の1階は水浸しで、水深はくるぶしほど。それでも一時は机の高さを越えたのだろう。パソコンやファクスに茶色の汚れがべっぴんとこびりついていった。

災害対策本部が設けられた2階に上ると、職員らが情報収集に追われていた。土砂崩れ、道路の冠水、交通規制……。ひっきりなしに電話が鳴る。「情報がましまらない」「どうなっているんや」。怒声が響いていた。

約2時間後、うすうすとお空が明るみ始めた。周囲が見渡せるようになって、被害の大きさがはた然とした。道路の水はがなり引いた。

「道路、川のよう」

説え 8/10



佐用川からあふれた水の勢いで横転した家屋（10日午後9時27分、兵庫県佐用町久崎で）＝須田拓来撮影

夜間の避難 危険伴う

今回の大雨では、避難が難しい状況で水に流されたと見られる被害が相次いだ。同様の被害は過去の水害でも繰り返され、夜間の避難行動は危険を伴う。約2時間後、うすうすとお空が明るみ始めた。周囲が見渡せるようになって、被害の大きさがはた然とした。道路の水はがなり引いた。

夜間に浸水が起きた後で避難すると、側溝に跌って転落したり、川から水があふれているのに気付くのが遅れて流されたりする危険がある。

ていたが、あちこちに流木や看板、自転車などが散乱していた。車も押し流され、

変えてとまっていた。町立佐用小学校の体育館には、付近の住民約100人が集まっていた。皆、急いで家を出て避難してきたという。パジャマ姿の人が目立つ。うろたえる表情で役場が配られた炊き込みご飯を食べていた。一人暮らしの無職の女性(70)は「玄関の戸が（水流で）あけて（壊れて）しまった。家のことが気になる。どうやって片づけたらいいのかわからない」と苦悶を吐いていた。（総務支局・藤原卓志 矢尾隆行）

簡易大防災総合センターの牛山泰行准教授が04・08年の主な災害死者の死亡行方不明者200人の状況を調べたところ、うち約1割の25人が避難行動中に犠牲になったと推察された。

04年の新潟水害の死者12人について現地調査した林彦男・京都大防災研究所教授

車道では岡山県美作市で倒木などにより、下り線が福福、津山間、上り線が山崎一津山間を通行止め。福福道の土下線、高松道の津門一志津間、徳島道の徳島一美馬間でも土下線が通行止めとなっている。

空の便では、全日空の福岡一大阪（伊丹）便が飛行中に雷を受け、到着後の点検のため伊丹発着の松山佐賀便の計3便復航が欠航した。

N-TT 脚回線不運
兵庫・兵庫
N-TT西日本兵庫支店は10日、兵庫県栗原市の河川の増水で通信ケーブルが破損し、同市内で9日深夜から一般回線などbto回線が不通になっていたと発表していた。復旧の見込みは立っていない。

同支店によると、通信ができないのは電話番号が「0790・74」で始まる地域。9日午後11時35分頃、同市一宮町の追分川にかかる安積橋の下を通るケーブルが破損した。周辺の道路が通行止めになっており、復旧工事に出向けない状態だという。

運休・欠航相次ぐ 鉄道、空の便

台風9号による大雨で、鉄道や高速道路、空の便にも大きな影響が出た。兵庫県佐用町では、JR姫新線の佐用一上戸間が数十分間わたって線路の盛り土などが流失して一部でレールが浮いた状態になり、

台風9号による大雨で、鉄道や高速道路、空の便にも大きな影響が出た。兵庫県佐用町では、JR姫新線の佐用一上戸間が数十分間わたって線路の盛り土などが流失して一部でレールが浮いた状態になり、

播磨新幹一津山間で終日運転を取りやめた。因美線の全線と、播磨線、智頭急行線の一部区間でも、線路内への土砂流入などで運休。「スーパーはくと」などの特急も運休した。高速道路でも、中国自動車道では岡山県美作市で